第66回 鎌倉薪能

第十九回 鎌倉芸術祭参加
KAMAKURA TAKIGINOH

日時：令和6年 10月11日（金）

開場：17時　開演：18時（雨天中止）
会場：鎌倉宮境内（鎌倉市二階堂154）

〈演目〉

素謡「翁」 金春憲和（シテ方 金春流81世宗家）
狂言「墨塗」 野村裕基（狂言方 和泉流）
能「通小町」 金春安明（シテ方 金春流80世）

〈チケット〉

料金：S席 9,000円（税込）　A席 7,000円（税込）　全席指定 パンフレット付
申込：CNプレイガイド　令和6年8月17日（土）10時より　TELまたはWEBで予約受付
TEL0570-08-9999（10時～18時）　www.cnplayguide.com/kamakura-takiginoh/
ファミリーマート　マルチコピー機でも直接購入可能
［鎌倉薪能 特設サイト］ www.trip-kamakura.com/site/kamakura-takiginoh/

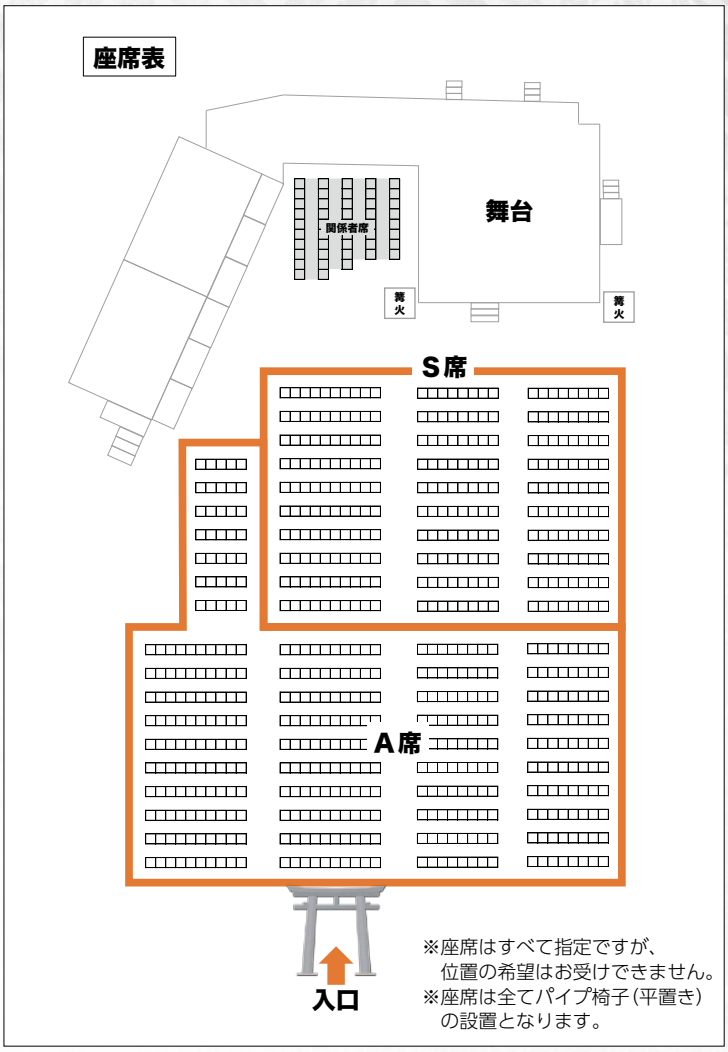
主催：（公社）鎌倉市観光協会　TEL0467-23-3050（8時30分～17時15分）　共催：鎌倉市　後援：神奈川県、鎌倉宮

CNプレイガイド

1959年の第1回より受け継がれてきました鎌倉薪能は今回で66回目を迎えます。鎌倉薪能は、発祥といわれる奈良、京都に次ぐ歴史を有する神事能として今に至ります。

会場は1869年に明治天皇の勅命によって創建された鎌倉宮。境内には特設能舞台が設けられ、杜に囲まれ月の明かりに照らされる中、そよぐ風、虫の鳴き声、薪の音が静かに響き渡り、観客を幽玄の世界へと誘います。

能は金春流による素謡「翁」と「通小町」、狂言は和泉流による「墨塗」と見応えのある演目をお届けします。



KAMAKURA TAKIGINOH 2024

素謡(すうたい)「翁(おきな)」

「どうどうたらりたらりら、たらりららりらりどう」という神聖な謡が会場に響きます。その詞章は「天下泰平・国土安穏」など、祝福に満ちた謡になっています。

「翁」は正月や祝賀能など、特別な公演の時にしか上演されない演目です。「翁は能にして能にあらず」と言われるように、他の曲と一線を画し、神聖視されています。翁には演劇的な筋立てはありません。儀式性が強い祝福の曲です。

今回は着座のままで、謡のみを聴かせる素謡の形式で上演します。

出典：能楽金春流情報サイトより

狂言「墨塗(すみぬり)」

訴訟事の為、都に長期滞在していた遠国の大名は、無事解決し帰郷することになった。太郎冠者を伴い、在京中馴染になった女の元へ別れを告げに行く。女は別れを惜しんで泣くが、実は水で目を濡らし泣いているふりをしていた。気付いた太郎冠者は、大名に知らせるのだが、大名は信じようとしない。そこで太郎冠者は機転を利かせて…。

能「通小町(かよいこまち)」

八瀬の里(京都市左京区八瀬)に夏安居する僧のもとへ、毎日木の実や薪を届ける女がいた。僧が女に素性を尋ねると、市原野に住む者と答え、回向を頼みつつ姿を消す。

女は小野小町の亡霊と察した僧は市原野へ出向く。弔っていると小町の霊が現れ、戒を授けて欲しいと望む。しかし、後から現れた深草の少将の怨霊が小町の受戒を妨げる。少将は生前、小町への恋慕から百夜通いを続けたが九十九夜目にて絶命し、死後も地獄で苦しんでいるのだった。僧に請われるまま懺悔として百夜通いを再現し、祝言の盃を目前にした九十九夜目の心境を追想する。その時、酒は仏の戒めと気がつく。その気づきが機縁となり、小町と共に成仏してゆくのだった。

【催しに関する注意事項です。必ずお読みください。】

●座席はすべて指定ですが、位置の希望はお受けできません。●チケットの販売は売り切れをもって締め切りとさせていただきます。●チケット購入後の変更は一切できません。●中止の場合の旅費等の補償はできません。ただし、チケット料金の払い戻しは行います。●開演後の入場については制限させていただく場合があります。●小学生以下の入場はできません。●ペット連れでの入場はできません。●会場内での撮影、録音はできません。●駐車場の用意はありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。●演能中の飲食は禁止です。

鎌倉薪能特設サイト

お問合わせ　(公社)鎌倉市観光協会 TEL 0467－23－3050（8：30～17：15）観光協会ホームページ https://www.trip-kamakura.com/

【鎌倉宮境内会場】JR鎌倉駅東口より、バス5番乗場「大塔宮」行き　終点「大塔宮」下車